

地図で見る滋賀県市町の姿

滋賀県内の各市町の統計データを地図とグラフで表しました。

自分の住んでいる市や町がどんなところか周囲の市や町と比べてみてください。

なお、人口、工業の製造品出荷額等は「図で見る滋賀県の姿」に掲載しています。

①平均年齢

「令和2年国勢調査」

令和2年10月1日現在の住民の平均年齢を市町別にみると、栗東市が41.6歳で最も低く、次いで守山市が43.1歳となっています。

一方、高島市が51.7歳で最も高く、次いで多賀町が49.8歳となっています。

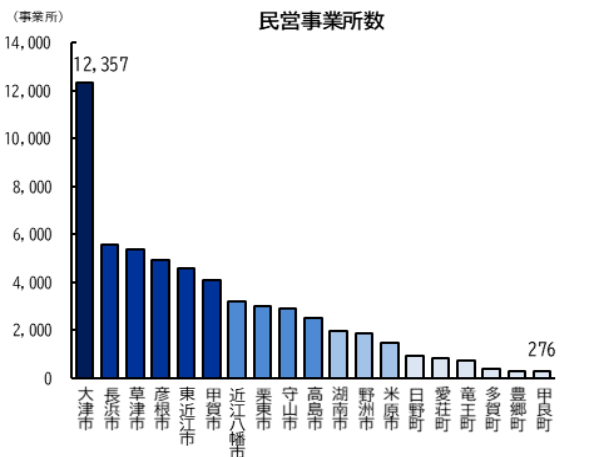
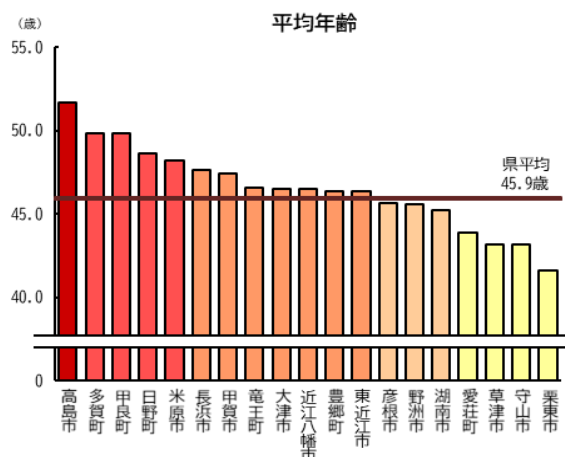
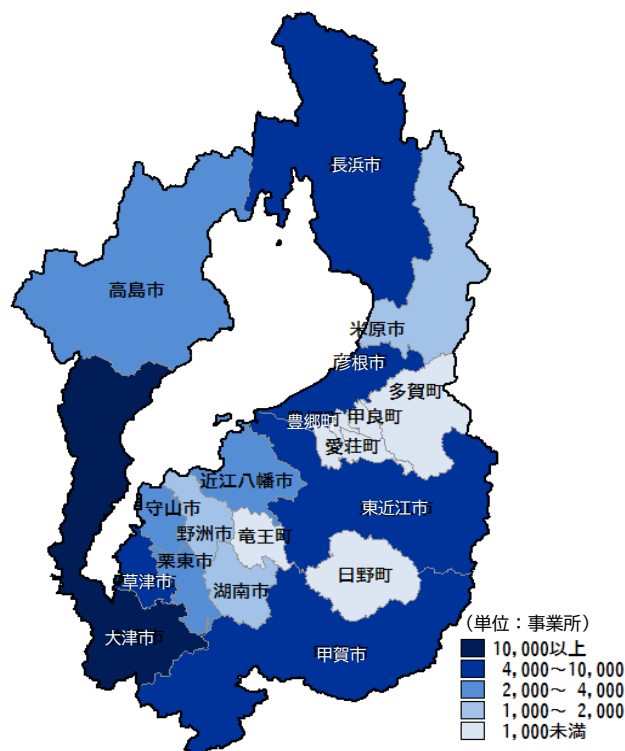
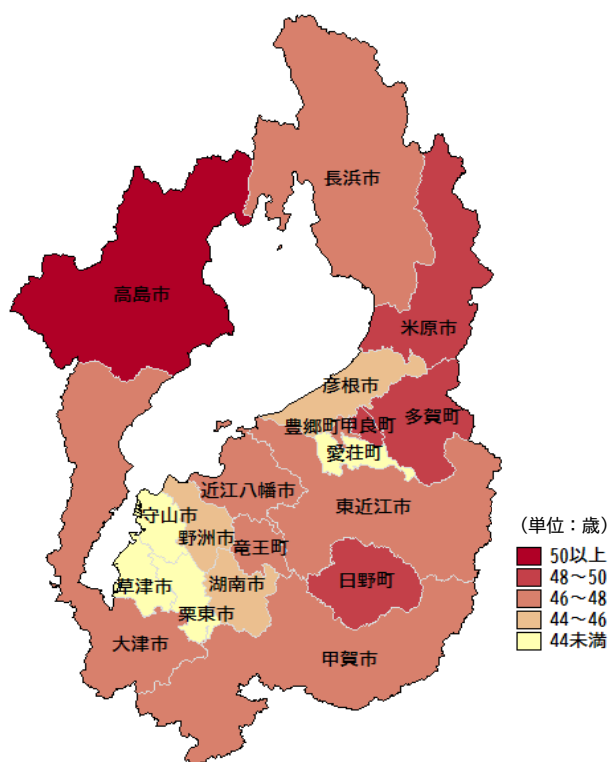
②民営事業所数

「令和3年経済センサス-活動調査」

令和3年6月1日現在の民営事業所数を市町別にみると、大津市が1万2,357事業所で最も多く、次いで長浜市が5,574事業所、草津市が5,378事業所、彦根市が4,929事業所となっています。

一方、最も事業所数が少ないのは、甲良町の276事業所となっています。

※1 事業内容等不詳を含む



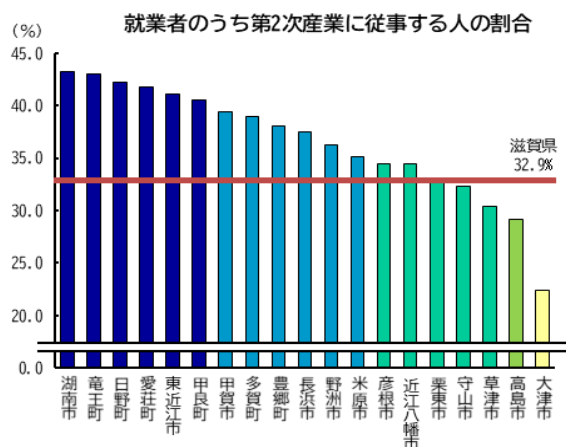
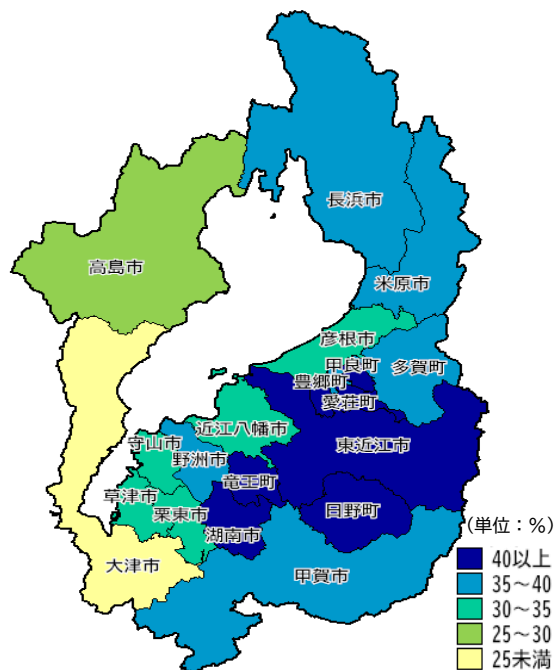
③就業者のうち第2次産業に従事する人の割合

「令和2年国勢調査」

就業者のうち第2次産業に従事する人の占める割合を市町別にみると、湖南市が43.3%と最も高く、次いで竜王町が43.0%、日野町が42.3%となっています。

一方、大津市が22.4%と最も低く、次いで高島市が29.2%、草津市が30.4%となっています。

※2「分類不能の産業」はどの産業にも分類されないため、割合の算出において、分母から除いている



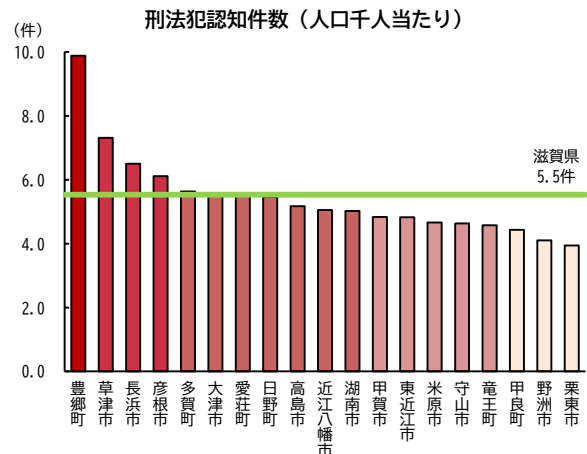
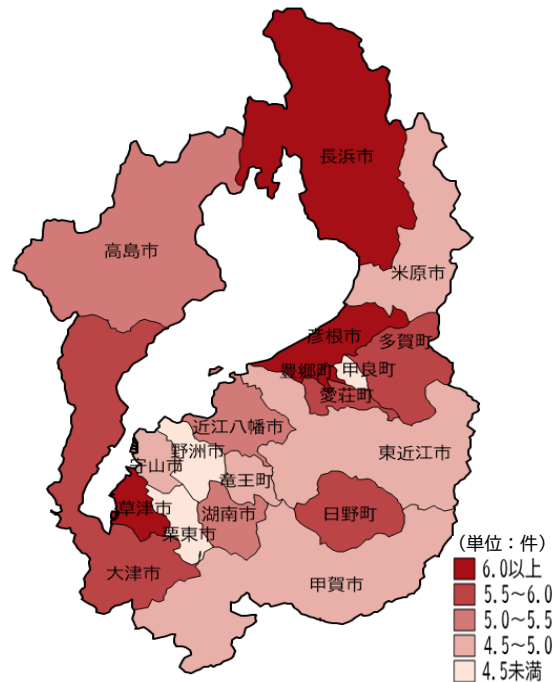
④刑法犯認知件数 (人口千人当たり)

「滋賀の犯罪 令和5年」

人口千人当たりの刑法犯認知件数を市町別にみると、豊郷町が9.9件と最も多く、次いで草津市が7.3件、長浜市が6.5件となっています。

一方、栗東市が3.9件で最も少なく、次いで野洲市が4.1件、甲良町が4.4件となっています。

※3「発生地不明」は除く



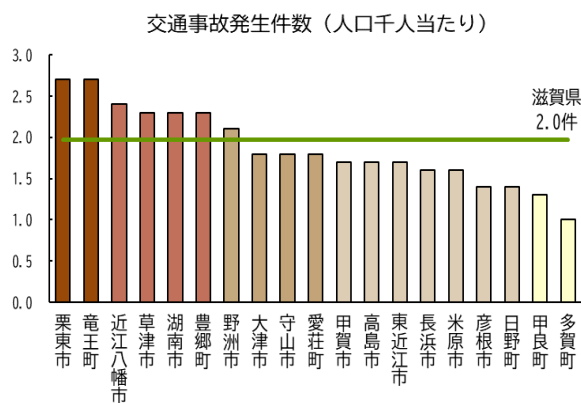
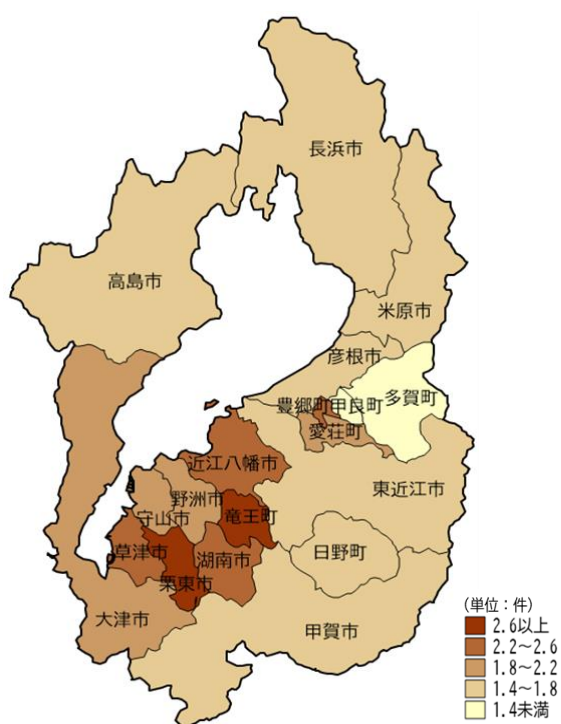
⑤交通事故発生件数 (人口千人当たり)

「滋賀の交通 2023」

人口千人当たりの交通事故発生件数を市町別にみると、栗東市、竜王町が2.7件と最も多く、次いで近江八幡市が2.4件となっています。

一方、多賀町が1.0件と最も少なく、次いで甲良町が1.3件となっています。

※4 高速道路等の件数は、市町別値には含めず、県平均値には含んでいます。

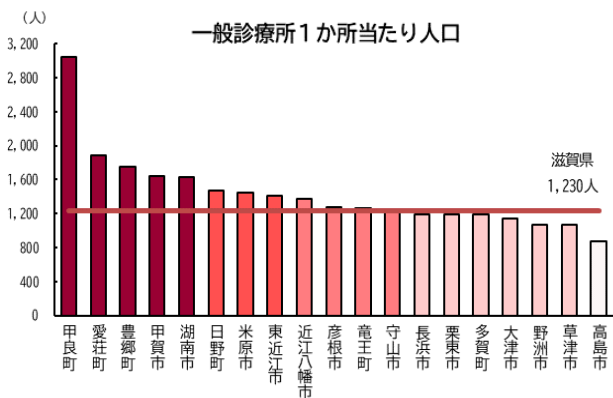
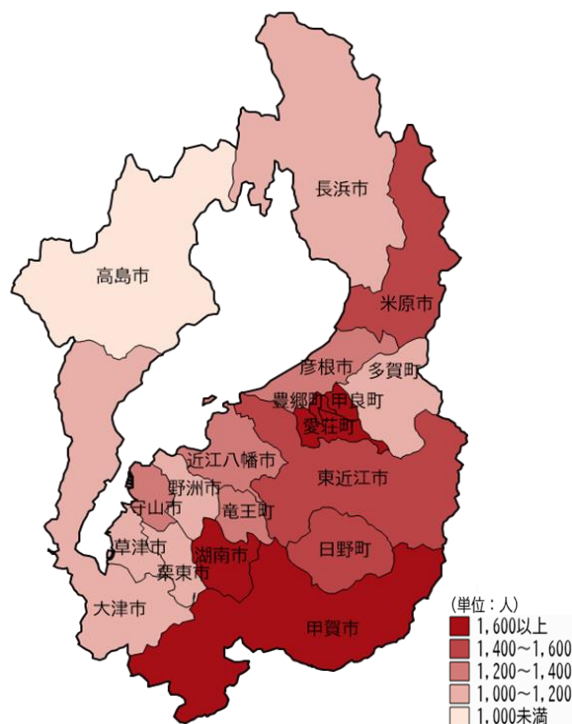


⑥一般診療所1か所当たり人口

「医療施設調査 令和5年」

一般診療所1か所当たりの人口を市町別にみると、高島市が873人と最も少なく、次いで草津市が1,062人、野洲市が1,068人となっています。

一方、甲良町が3,045人と最も多く、次いで愛荘町が1,881人、豊郷町が1,746人となっています。

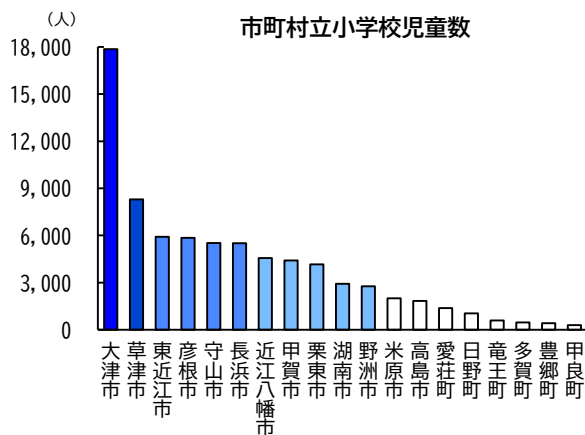
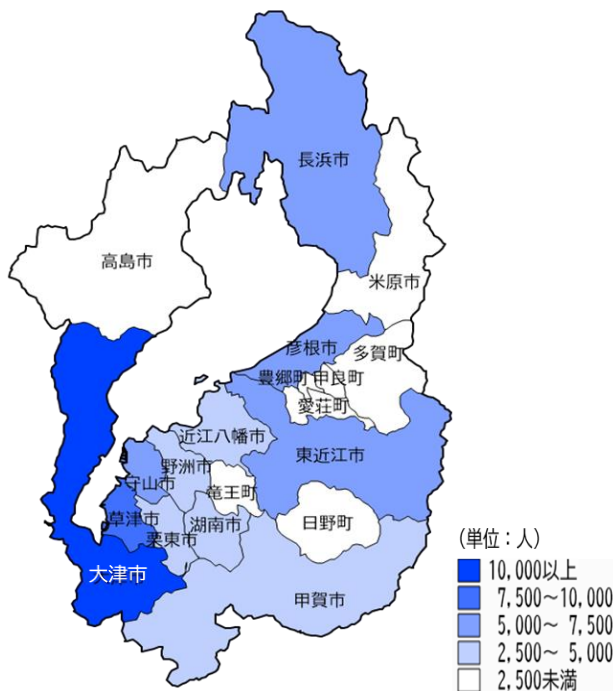


⑦市町立小学校児童数

「学校基本調査 令和6年度」

令和6年5月1日現在の市町立小学校の児童数は、大津市が17,858人と最も多く、次いで草津市が8,297人、東近江市が5,915人となっています。

一方、甲良町が294人と最も少なく、次いで豊郷町が417人、多賀町が465人となっています。



⑧ラスパイレス指数*

「県市町振興課」

令和5年4月1日現在のラスパイレス指数を市町別にみると、野洲市が101.3で最も高く、次いで草津市が101.2、守山市が101.0となり、100.0以上の団体は5団体となっています。

一方、豊郷町が95.4と最も低く、次いで長浜市、甲賀市、日野町、愛荘町が97.3となっています。

*国家公務員行(ー)の俸給月額を100とした場合の
地方公務員一般行政職の給与水準

